

## 《教育長メッセージ 第63号》



前号から、だいぶ、時間が経ってしまいました。特に何が忙しかったというわけではありませんが、また、教育長の部屋を更新しなければという思いはあったのですが、ついつい、一ヶ月以上、経ってしまいました。

毎号、多くの方に読んでいただいています。本当に、ありがたいことです。これからも、一方通行ですが、私の思いや考えを聞いていただければ幸いです。

よろしく申し上げます。

### 『巣箱』

子どもの頃、巣箱をよく作りました。

鳥用の巣箱です。

春先に山に行って、自分なりに巣作りをしてくれそうな木を選んで取り付けます。

小学校4年生の年だったと思います。シジュウカラ用の巣箱を作って、家から歩いて30分ぐらいのシジュウカラがよくいる小高い丘の木に取り付けました。

自分の遊ぶエリアだったので、山に遊びに行くたびに、自分の巣箱にシジュウカラが住んでくれないかなあと気にしていました。

巣箱は、簡単に言えば、屋根をつけた木の箱で出入り口の穴を開けます。穴が大きいと繁殖力の旺盛なスズメが巣として使うので、直径2.8 cmの穴を開けます。雨は吹き込むと巣材が腐るので、屋根をしっかりとつけて隙間ができないように作ります。

その年、ついに、シジュウカラが巣材を口にくわえて巣箱の穴をくぐる姿を見ました。

そして、ある朝、木をよじ登って、巣箱の屋根を開けました。巣箱は、観察用に蝶番で屋根が開けられるようにしてありました。

木に登り出すとシジュウカラがけたたましく鳴き始めました。その迫力に、小さな鳥で人を襲うことはありませんが、少し怖さを感じました。

巣箱は、外敵のヘビが入り込まないように、高さ2、3 mの所に取り付け、足場のために一本だけ太めの枝がありました。ジャンプして枝に飛びついて、何とか枝の上に立つと目の高さに巣箱があります。

一羽のシジュウカラの鳴き声はさらに激しくなります。

おそるおそるふたを開けると、羽を広げて小さな卵を守り、こちらにくちばしで攻撃しようという勢いのシジュウカラがいたのです。

うれしかったです。

それから、毎朝、朝早く起きて、山に入り、観察を始めました。

一週間ほど経つとシジュウカラが虫を加えて巣箱の中に入るようになりました。卵は、8個あったと思います。孵ったヒナは、4羽でした。

観察の度に、親鳥がけたたましく巣箱のまわりの枝を飛び回り、叫んでいました。巣箱の中では、それに応えるようにヒナたちが鳴いていました。

ヒナがだいぶ大きくなり、毛が生え始めた頃でした。早く大きくなって、無事に、この巣箱から巣立ってほしいと思い始めた頃でした。

その朝は、私が行くと2羽の親鳥がいつもより激しく巣箱のまわりを飛び回り、いつもよりけたたましく叫んでいて、嫌な予感がしました。

すぐ木に飛びついて、巣箱のふたを開けました。

巣箱の中に、アオダイショウがとぐろを巻いていました。ヒナを飲み込んで動けない状態でした。

すぐに、アオダイショウをつかんで巣箱の外に放り投げました。

その後のことは、恐怖と怒りと悲しみで10歳の少年は、あまり記憶がなく、泣きじゃくりながら木の棒で何度も何度も叩き、気がつくど、動かなくなったアオダオショウが足元に横たわっていました。

トボトボ山を下りながら、自分を責めました。梯子を使って、枝の少ない木の幹のもっと高い所に巣箱を取り付ければよかったのです。

私は、宮城の田舎で、豊かな自然の中で、多くの生きものたちに育ててもらいました。校門の外で多くのことを学びました。

公園などで巣箱を見かけると、その朝のことを思い出します。

次回は、「おらが学校」について、私の思いを述べてみたいと思います。